

# 第17回（2022年度）協会活動有功賞受賞者

協会活動有功賞は、当協会の運営、事業等の活動で顕著な貢献のあった者を表彰することにより、会員の協会活動に対する参加意欲の増大を促すとともに、協会活動の更なる発展を図ることを目的として創設されたものです。

いな の ひろゆき  
**稲野 浩行 氏**（地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所）

## ガラスリサイクルの研究と普及に関する長年の貢献



稲野浩行氏は、大きなガラス工場がない地元北海道のニーズに基づき、北海道内で発生した蛍光管、ブラウン管、OA機器、自動車、太陽光パネルなどの廃ガラスについて有効利用、無害化処理などのリサイクル研究開発を30年にわたって継続してきた。特に、廃ガラスのリサイクル技術に美術工芸の手法を取り入れ、価値の高い装飾タイルなどに作り替える「アップサイクル」に、長年にわたって取り組んできた。また、その研究成果を、道内での発表だけでなく、本協会や論文誌での発表、業界団体向けの講演などを通じて広く普及を図ってきた。さらに、地元北海道の企業はもとより、全国の企業、団体等に対する相談対応や技術指導などを通じてガラスリサイクルのレベルアップに貢献してきた。また、本協会東北海道支部北海道地区でのセミナーの開催、北海道内のセラミックス関係者のネットワーキングなど、積極的に協会活動の充実に貢献してきた。同氏の活動は、本協会が推進するガラスの学術の発展と産業の振興に大きく貢献するものであり、よって協会活動有功賞に値するものとしてここに推薦する。

**略歴** 1986年北海道大学理学部化学科卒業。1991年北海道立工業試験場。1999年多摩美術大学非常勤講師。2020年北大工学院社会人博士課程修了（博士（工学））。改組により2020年（地独）道総研エネルギー・環境・地質研究所。2022年室蘭工業大学希土類材料研究センター客員教授。

しらかわ さとし  
**白川 仁志 氏**（日本特殊陶業(株)）

## 化学分析方法規格化および標準物質の開発に対する貢献



・2001年に日本特殊陶業株式会社に入社以来、化学分析における試料前処理、分析等に従事。  
・日本セラミックス協会 資源・環境関連材料部会 化学分析分科会（現標準化委員会化学分析小委員会）に平成17年から平成27年まで参加。  
・アルミナ微粉末、炭化けい素微粉末、窒化けい素微粉末の協会認証標準物質作製に参加。  
・JCRS 109「ファインセラミックス用アルミナ微粉末中の環境影響成分の化学分析方法」、JCRS 110「ファインセラミックス用炭化けい素微粉末中の環境影響成分の化学分析方法」、JCRS 111「ファインセラミックス用窒化けい素微粉末中の環境影響成分の化学分析方法」の協会化学分析方法の規格作成に参加。  
以上の活動により協会が推進する標準化事業（化学分析方法規格の標準化および標準物質の開発と供給）に大きく貢献した。よって協会活動有功賞に値するものとしてここに推薦する。

**略歴** 2001年九州大学工学部応用物質化学科卒業、同年日本特殊陶業株式会社入社、現在に至る。

こうとう ともよ  
**後藤 知代 氏**（大阪大学）

## 協会誌編集委員会の特集・連載企画による活動活性化への貢献



後藤知代氏は、協会誌セラミックスの編集委員会において6年間精力的に特集企画と連載記事編集に取り組み、研究情報の発信や活動活性化において成果を上げている。2017年の編集委員就任後、早速特集立案に取り組み、外部共同研究拠点や協会組織との連携特集を企画し発表した。その後、他委員と協力した特集企画と掲載を進め、最近では若手研究者に焦点を当てた「未来を担う若手セラミスト2022」特集を2号連載企画として主導した。本特集では、協会事務局と協力して各部会からの推薦者と技術奨励賞受賞者より寄稿を募り、全委員へ編集協力を仰ぐことで、幅広い専門分野と多彩な視点と目標をもつ若手セラミストが集結した特集企画が達成された。

さらに、連載特集「新研究室紹介」の主査を2019年～2021年まで務め、他担当委員とも協力して全国の研究室への執筆ご依頼とその編集業務に携わっている。特に2020年からは、それまで不定期掲載であった本連載を、毎月欠かさずに掲載する連載企画へと発展させた。

以上の活動により協会の協会誌編集委員会を通じた活動活性化に大きく貢献した。よって、同氏は「協会活動有功賞」に値するものとしてここに推薦する。

**略歴** 2012年名古屋大学大学院工学研究科博士課程後期課程修了、博士（工学）。同年同研究員、同年九州大学大学院工学研究院学術研究員、2014年産業技術総合研究所先進製造プロセス研究部門産総研特別研究員、2015年大阪大学産業科学研究所助教、2021年同大学高等共創研究院（産業科学研究所）准教授、現在に至る。